

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2990500015
法人名	社会福祉法人三養福祉会
事業所名	グループホーム檀原の郷
所在地	奈良県橿原市飯高町7-1 (電話) 0744-21-1200
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1
訪問調査日	平成20年9月9日

## 【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	入居定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	2人, 非常勤 15人, 常勤換算 15.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート耐火造り
	3階建ての 1階 ~ 階部分

### (3) 入居料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	有( 150,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000円 )	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,160 円				

### (4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	10名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.3歳	最低	63歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平成記念病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年に開設された3階建ての特別養護老人ホームの1階に併設されたグループホームです。大和三山を東南に望み、自然豊かな環境に囲まれています。手入れの行き届いた中庭には池もあり金魚も飼われています。リビングには畳コーナーがあり居心地良い空間作りがなされています。職員の優しい言葉かけと見守りの中で入居者の表情も明るく穏やかに生活されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスとしての理念や地域との付き合いでは、その必要性を正しく理解し、実現に向けて検討し努力されています。更に住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、ホームの果たすべき役割を反映した理念の検討と実践に取り組んでいきたいと考えられています。運営推進会議では、評価への取り組み状況等についても報告し、ホームの改善課題を話し合うよう検討されています。なお、家族への報告では、新たに“檀原の郷便り”を発行して日々の暮らしを伝えられています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長、管理者ともに任務に就いて日は浅いが、評価を前向きに活かしていく姿勢が窺え、評価の意義はミーティング、スタッフ会議において話し合われ認識されています。今後は評価の内容をミーティングなどで報告されていますので、評価内容を一層活かすため全員で推進されるよう期待します。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの運営状況や地域との関わりについて話し合われています。今後は評価への取り組み状況等についても報告し、ホームの改善課題を話し合うことやメンバーには地域の実情に詳しい民生委員の参加を働きかけるよう検討されています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問時等に希望・要望を聞く等されています。介護相談員を受け入れ、要望や、苦情、希望等を本人や家族から積極的に聞き出してもらい、問題や課題があれば職員会議で検討される仕組みができています。また、運営推進会議にも家族が多数参加され運営に反映できるよう努められています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入り、職員が地域の清掃に参加したり、法人が主催する納涼祭にも地域の方、家族、老人会の方等が多数参加され地元の人達との関わりを大切にされています。今後の課題として、立地上の問題もありますが、入居者が幼稚園や老人会の行事にも積極的に参加し、地域住民との交流の機会を多く持たれることを期待します。</p>

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念(安心・安全・安息)を大切にしながら、“その人らしく生きる。その人に寄り添いながらケアをする”を事業所独自の理念として掲げられています。地域密着型サービスを正しく理解されており、更に住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、ホームの果たすべき役割を反映した理念の検討に取り組んでいきたいと考えられています。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護の拠りどころとして常に目に付くよう、理念を明記しリビングやスタッフ室の壁に掲示されています。管理者と職員は朝のミーティング時に話し合い理念を共有し、日々のケアに取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、職員が地域の清掃に参加したり、法人が主催する納涼祭にも地域の方、家族、老人会の方等が多数参加され地元の人達との関わりを大切にされています。		今後の課題として、立地上の問題もありますが、入居者が幼稚園や老人会の行事にも積極的に参加し、地域住民との交流の機会を多く持たれることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者ともに任務に就いて日は浅いが、評価を前向きに活かしていく姿勢が窺えます。評価の意義はミーティング、スタッフ会議において話し合われ認識されています。		評価の内容をミーティングなどで報告されていますので、評価内容を一層活かすため全員で推進されるよう期待します。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は介護相談員、家族代表、市職員等幅広いメンバーで構成され定期的開催されています。ホームの運営状況や地域との関わりについて話し合われています。今後は評価への取り組み状況等についても報告し、ホームの改善課題を話し合うことやメンバーには地域の実情に詳しい民生委員の参加を働きかけるよう検討されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から介護相談員を受け入れたり、施設長が市の会議に出席する等市との繋がりを持たれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしや健康状態を詳細に記録し、定期的に家族に報告されています。状況に変化がある場合は直ちに家族に連絡される仕組みがあります。金銭管理も定期的に報告されています。職員の異動についてはその都度家族に報告されています。“檀原の郷便り”を発行して日々の暮らしぶりを伝えられています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時等に希望・要望を聞く等されています。介護相談員を受け入れ要望や、苦情、希望等を家族や本人から積極的に聞き出してもらい、問題や課題があれば職員会議で検討される仕組みが来ています。また、運営推進会議にも家族が多数参加され、運営に反映できるよう努められています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は各ユニットに固定され、職員が代わる場合は引継ぎの期間を十分にとり、入居者へのダメージを少なくするよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や月1回のスタッフ会議において勉強会を実施されています。		パート職員は、事業所内の勉強会には参加されていますが、法人外の研修や勉強会にも参加できる機会を多くもたれることが望まれます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や市の連絡会等に参加し交流する機会を持たれています。		他の同業者の職員と実践的な交流を持ち、サービスの向上につなげていく取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居予定者が安心、納得して入居できるよう見学に来てもらうようにされている他、家族と十分に話し合う機会を持たれています。また、職員が自宅を訪問し馴染みの関係を作り、併せて本人の生活状態を把握し理解する努力をされています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、調理、川柳、昔話等入居者から学ぶ場面を多く作り、出来る限り見守り、介在しすぎないよう努め、共に支え合う努力をされています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、日常生活の関わりの中で希望や意向を把握し、情報を共有し、ミーティングで話し合いケアプランに反映されています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日のミーティング、2週間評価、モニタリング、3ヶ月評価を実施し、その人らしく暮らせるよう、本人、家族、医療関係者、職員が話し合い介護計画を作成されています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人や家族からの要望や、状況変化があったときはその都度、また、安定されている場合でも月に1度は見直しされています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望があれば病院の受診時の送迎等柔軟に支援されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者等の希望に沿って、従来のかかりつけ医の受診を支援されています。ホームの協力医療機関での受診は健康相談も含めて週3～4回あり、適切な医療を受けるための支援をされています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者は元気な方が多く重度化や終末期の対応についての取り組みは見られません。		重度化した時の対応のあり方は本人、家族の最大の関心事でありますので、提供されるサービスの範囲や内容等について、明確な方針を確立し、ホームが最大限できる事を家族や職員と話し合い方針の共有化に向けて取り組まれることを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時や食事の見守り等もさりげない言葉使いと穏やかな対応で支援されています。個人情報、プライバシーについてはミーティングや勉強会で取り組み、個人情報に関する文書を玄関にも掲示されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、楽しみごと等入居者個々の希望に沿って支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食昼食は隣接の施設から均一の食器と食事内容で提供されています。職員も一緒に同じテーブルを囲み同じものを食べるようにされています。夕食は職員と入居者が調理や片付けを共にされています。		朝食、昼食も入居者の能力に応じ、調理や盛り付け、片付け等職員と共に行う事で参加する喜びとなるため、入居者が参加できるよう工夫されることを期待します。また、夕食時だけでなく、朝食時、昼食時にも各自の箸、茶碗等使って食事が出来るよう検討されることが望まれます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隣接の施設には温泉があり、ホームだけでなく施設の入所者やデイサービスの入居者と共用されています。また、個浴を希望する入居者の支援もされています。		ホームの入浴時間は11:30～12:30と決められていることから、昼食時に掛かるため、入浴の時間帯について検討されることを期待します。
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、散歩、楽しみごと等一人ひとりの希望に沿って支援されています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は殆ど毎日されています。希望があれば近くの喫茶店に出掛けられることもあります。		玄関を挟んで両側の居室の前に通路型の菜園がありますが、菜園に行くには各居室の中を通らなければなりませんので、柵の両側を扉にする等、出入りが出来るよう工夫することが望まれます。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の安全確保のため、玄関や居室には鍵があり、玄関の鍵は内側からは軽く掛けてある状態ですが、外側からは開かない構造になっています。また、ドアの開閉時にはチャイムが鳴り知らせるようにされています。		鍵を掛けることは身体拘束にもつがりますので、鍵をかけない暮らしの大切さを認識し、鍵を掛けない、チャイムに頼らない見守りケアの実践等そのあり方を検討されることを期待します。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と一緒に、年2回、消防訓練、避難訓練を消防署立ち会いの下で実施されています。		職員だけでは限界がありますので、地域の自治会に参加を呼びかける等地域の人々の協力体制を整備する取り組みが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事や水分の摂取量を記入し、職員間で情報を共有され適切に支援されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く、開放感があります。入居者の動線に配慮してテーブルと椅子を配置し、特に椅子はゆったりした座り心地のよい物を置く等工夫されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品がある居室、ベットでなく布団が敷いてある等その人らしく居心地の良い居室となっています。持ち込みの少ない方には家族の協力を働きかけられています。		